

平成19年12月6日  
第二管区海上保安本部

問い合わせ先  
第二管区海上保安本部  
海洋情報部 海洋調査課長 おいかわ 及 川  
電話 022-363-0111 (内線2530)

### 三陸沖暖水塊ゆっくり離岸

～ 平成19年10月暖水塊のその後 ～

今年10月上旬から下旬にかけ、宮城県から岩手県に至る沿岸に接岸した暖水塊は、現在、三陸沿岸からゆっくり離岸を始めています。

水温は、三陸中部から南部にかけて徐々に下がってきています。

10月上旬以降沿岸部でみられた、沖合に流れる1ノット(秒速約0.5m)以上の強い流れは、現在では沖合に離れています。

また、中心位置も10月に比べ、約30kmほど北に移動しています。

なお、沿岸を南下する親潮は、鮎ヶ崎東方約150kmに達し、津軽暖流の張り出しも最盛期を過ぎ、東北沿岸海域は、徐々に例年並の海況(2006年12月上旬参照)となっています。

この暖水塊は、ゆっくり離岸し北上を開始していますが、引続き沿岸域に影響を及ぼしているため、三陸南部海域は複雑な海況となっています。このため、当本部では暖水塊の影響が懸念される近隣の漁業協同組合、海事関係者等に対しこの暖水塊も含めた海況の情報を二管区海洋速報により提供するとともに、海中転落の注意とライフジャケットの常時着用を呼びかけています。

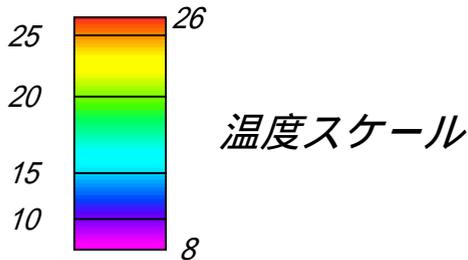
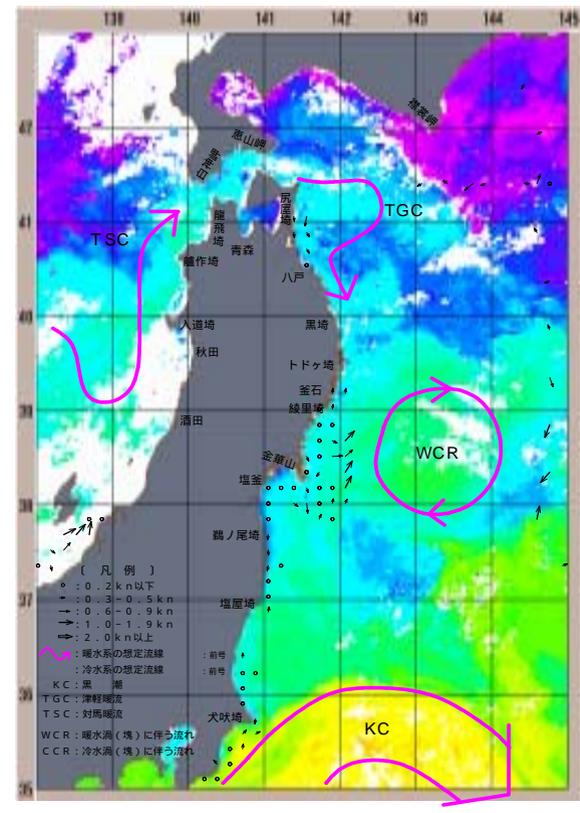
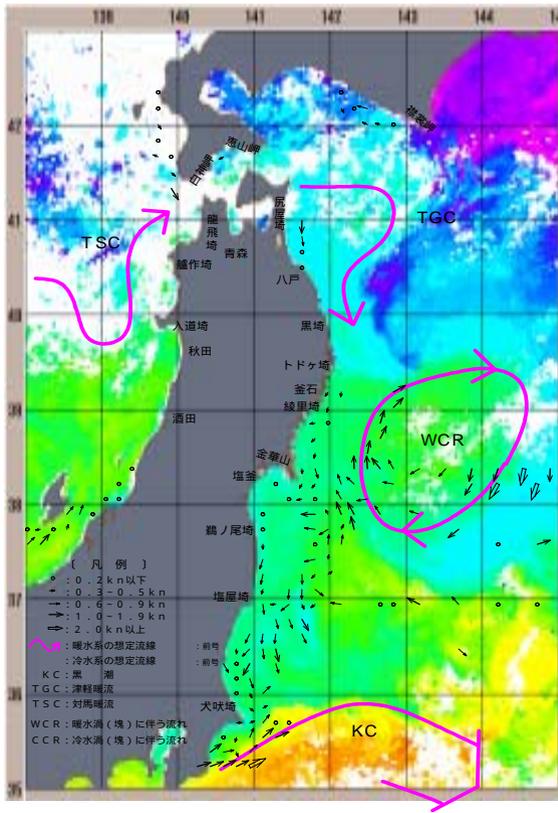
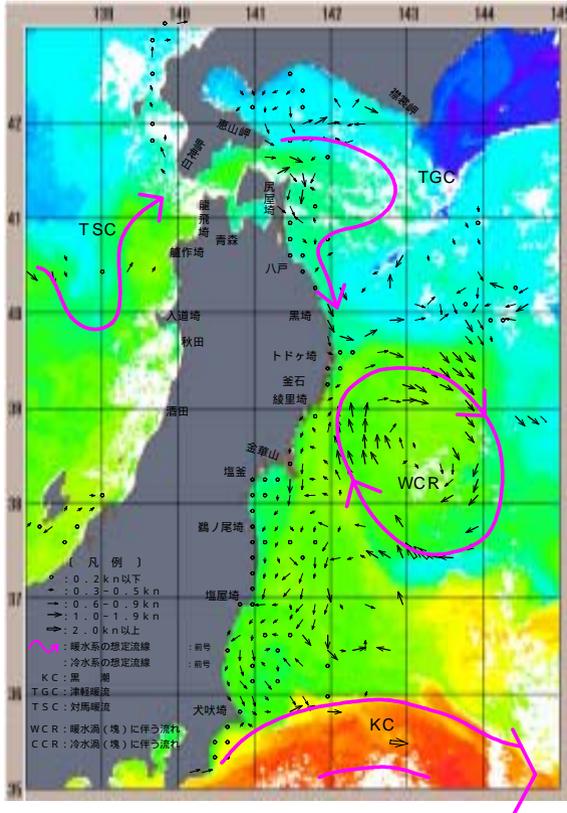
なお、今回の暖水塊の影響により、10月3日には釜石沖を航行中のタンカーから海中転落した乗組員が、転落位置から約11km離れた東方の海域において発見されたほか、八戸市の鮫角灯台付近で10月29日から行方不明となっていた男性が、11月8日には金華山東方約310kmのはるか沖合で発見されています。

# 二管区海洋速報(海流図) 21~23号 & NOAA画像

21号 2007.11月上旬

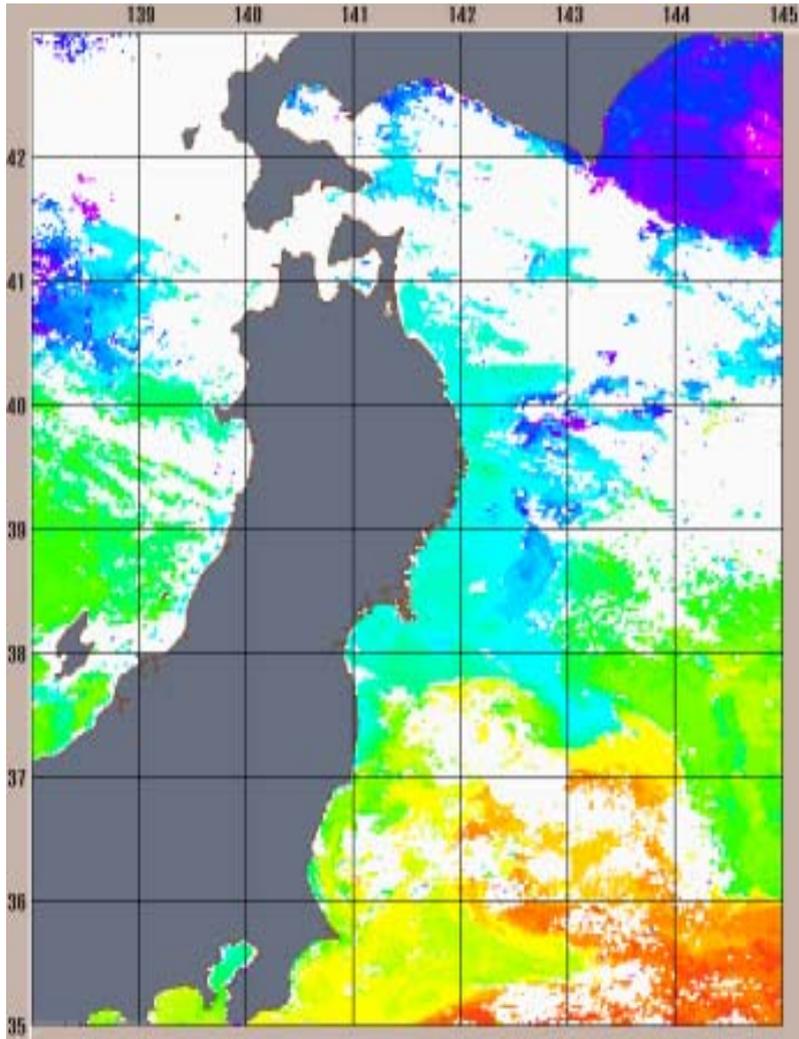
22号 2007.11中旬

23号 2007.12月上旬



“NOAA”とは米国海洋大気庁が管理運営する気象衛星で、軌道平均高度850km、赤道面と軌道面のなす角98.7°、周期102分で地球を極軌道を周回している。現在、15,17,18号の3機が稼働している。NOAAには地球観測用の数々のセンサーが搭載されており、その内の地表の発する電磁波を捉えるセンサー(AVHRR)の情報を利用して海面の水温分布を得ている。

2006.12月上旬



# 八戸鮫角付近行方不明事案

